

令和7年度 港南中央地域ケアプラザPDCAシート_公表用 (事業計画書、事業報告書、事業実績評価)

<p>—総括表—</p>	
<p>◆ 事業計画</p>	
<p><input type="checkbox"/> 地域の現状と今後の方向性</p> <p>港南中央地域ケアプラザの担当エリア(上大岡、笹下、日野第一)は鎌倉街道・環状2号線・笹下釜利谷道路の大きな3つの幹線道路に面し、地下鉄やバス等の交通網は充実していますが、その反面、主要道路の左右は急な山坡で道路幅も狭く、車が通れない場所もあることから、高齢者・障害児者・乳幼児をもつ親にとっては、外出や買い物等がしにくい状況が見られます。また、どの地区も高齢化率は区平均を下回っていますが、丁目別に見ると30%を超える地域もあります。住民相互の助け合い活動である「福祉ネットワーク」に関しては周知不足や担い手不足などの課題はありますが、どの地区も早くから活動が実施されており、住民同士の支え合い活動の土壌ができています。</p> <p>当ケアプラザの担当エリアが広いため、ケアプラザまで遠い方は足を運ぶ機会が少なく、ケアプラザで開催する講座に参加できない現状があります。そのため、ICTも活用しながら、身近な場所での講座開催から居場所作り、そしてその場出張相談につなげることで、日頃ケアプラザを利用しない方にも周知し、相談がしやすい関係づくりを行っていきます。また、地域と協働で身近な場所での住民同士の交流のきっかけづくり、見守りや、自立支援のための拠点となる場所(介護予防教室等)を作っていきます。</p> <p>高齢者の方が増えるにつれて、認知症の方も増えることが考えられます。昨年度よりチームオレンジ事業に取り組み、郵便局など事業所を含む地域や中学校等に認知症サポーター養成講座やステップアップ講座を継続して開催することで、多くの世代の方に理解を広げています。また、高齢者の方が在宅生活を続けていくにあたり、介護保険だけではなく、医療機関との連携や、地域の方のゆるやかな見守り、介護保険外のサービスの活用など、様々な方との連携がより一層必要になってくると考えています。関係する方々と情報交換や困りごとの検討をする仕組みを作ることで、高齢者の方が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続ける～地域の方に限らず、企業も施設も巻き込んだ地域共生社会の構築を目指します。</p> <p>地域福祉保健計画の推進については第5期策定の年となります。策定に向けて、支援チーム会議の場を設けて、地域の方とともに計画に沿った取組をチームとして実現できるよう支援していきます。</p>	
<p><input type="checkbox"/> 今年度の重点的な取組</p>	
<p>新規</p>	<p>継続</p>
<p>—具体的な取組内容—</p>	
<p><input type="checkbox"/></p>	<p>■ 身近な場所での居場所・拠点作りをすすめ、地域の町内会館や近隣の企業、区民施設等と連携して事業等を開催することで、日頃ケアプラザを利用しない方にも周知をすすめていきます。</p>
<p><input type="checkbox"/></p>	<p>■ 「チームオレンジ事業」を通じて、認知症の方やその家族への支援や認知症理解への活動を展開します。</p>
<p>■</p>	<p><input type="checkbox"/> より良い地域づくりのために個別・包括レベルでの「地域ケア会議」を開催していきます。</p>
<p><input type="checkbox"/></p>	<p>■ 災害時要援護者である障がい児者・高齢者と地域等を、「防災」等をキーワードにしてマッチングを行い、それを有事の備えと平時の見守りにつなげていきます。</p>
<p>◆ 事業報告・事業実績評価</p>	
<p><input type="checkbox"/> 振り返り</p> <p>居場所作り/今ある身近な居場所が継続できるよう支援をするとともに、新規の居場所構築を地域住民と共に検討していった。認知症関連事業/認知症カフェやマップ作成は当事者の参加や家族の声を聞く機会となった。認知症啓発リレーイベントの「RUN伴」と同日にイベントを開催したことで、認知症支援に取り組まれている地域の方とRUN伴に参加した介護保険事業者と交流し、支援の輪を広げることができた。「地域ケア会議」/何らかの事情で医療つながれず、介護保険の利用も後手になる。すぐに亡くなる事例が複数あり、包括レベルの地域ケア会議となった。関係各所と情報共有し、対応の検討できる場に繋がるように取り組んだ。港南中央地域ケアプラザでは、介護予防給付管理件数が400件超あり、特に買い物支援が問題になる。そこで、介護予防に繋がるよう個別地域ケア会議を次年度は検討していく。</p> <p>防災をキーワードにした見守り/個別支援として、障がい児者の見守りについて「防災」訓練に参加していただくことなどで、地域と検討を行った。「こうなん災害時協働隊」として防災訓練に参加し、福祉避難所の機能を伝えることで、災害時の見守りについて地域と共に検討した。</p>	
<p><input type="checkbox"/> 区からのコメント</p> <p>住民や施設利用者にとって、心安らげる場所であったり、自分自身が楽しみながらできることをやるという場所といった「居場所づくり」を進めていただきました。また、今年度は「第5期港南ひまわりプラン(地区別計画)」の策定において、意見交換会を活用しながら、地域の皆さんとともにご尽力いただきありがとうございました。</p> <p>認知症支援事業では、認知症カフェやマップ作成活動をはじめ、当事者やご家族と直接関わる機会を丁寧に積み重ねていただいたことに深く感謝いたします。特に、RUN伴との同日開催イベントは、地域の認知症支援を担う住民の皆さま、介護保険事業者、当事者が自然に交流する場となり、支援の輪を広げる大変意義深い取組でした。地域における認知症理解の促進と、顔の見える関係づくりが確実に前進した一年であったと感じます。</p> <p>地域ケア会議については、医療につながりにくい方や、介護保険サービスの利用が後手にまわる事例が続いたとのこと、現場のご苦労を感じます。包括レベルの地域ケア会議として、関係機関と情報を迅速に共有し、支援方針を検討する場につなげようとした姿勢は大変重要であり、高く評価しております。</p>	